

ICS Scholarship 2006 国際外科学会 留学レポート

関根 浄治 先生 / スウェーデン ウメオ大学 2006 年 9 月 ~

拝啓

先生方には益々ご清栄のこととお慶びを申し上げます。

さて、この度の渡欧に際して ICS スカラーシップを頂戴できましたことを日本部会会長の高崎健先生をはじめ会員の先生方に心より感謝を申し上げます。

私は 17 年前にインプラント発祥の地スウェーデンで初めてインプラント手術を教わり、これまでインプラントを用いた口腔腫瘍切除後の口腔機能再建をメインテーマに治療・研究を行ってきました。この度、2006 年 9 月より 1 年間の予定でウメオ大学へ招聘いただいたことをとても誇りに感じております。



ウメオはストックホルムからおよそ 600km 北のボスニア湾沿いに位置します。北緯 63 度で北極圏まであと少しです。人口 11 万人のうち学生数 2 万人、人口平均年齢 30 歳という小さな街ですが、街はとても活気に溢れています。有名なボルボトラック社の製造工場もこのウメオにあります。



ウメオ大学附属病院はスウェーデン最北部の大学病院で、スウェーデン全面積のほぼ半分を占める地域の医療をカバーしています。とくに胸部外科、脳神経外科、形成外科そしてインプラントを主体とする顎顔面口腔外科などトップクラスの専門医療を提供しています。関連病院とは TeleMedicine と呼ばれるリアルタイムテレビカンファランスシステムを使って症例検討を行っています。

ウメオでは時間がゆっくりと過ぎて行きますが、医学のみならず電子工学・バイオテック系などのあらゆる分野で世界的な仕事が進められています。また、ウメオはオペラやジャズフェスティバル、映画祭などのイベントも多彩です。

現在 30 名程度の日本人がウメオ在住とのことで、大学病院内ではまだ日本の先生にはお会いしていません。



冬のウメオは雪と氷に覆われ日照時間も5時間程度ですが、ウメオの人々は冬を楽しむ術をよくご存知で、私も仲間たちと楽しく過ごさせていただいています。公用語はご存知の通りスウェーデン語ですが、皆さんとてもきれいな英語を話します。カンファランス等は基本的に英語ですが、白熱してくるとスウェーデン語に変わります。私はこちらに来てすぐにスウェーデン語の夜間学校へ通いました。スウェーデン語ビギナーが最初に覚えなければならない表現は「Ska vi fika? (お茶にしましょう?)」です。大学病院内でも日に4~5回は皆集まってお茶の時間があります。患者さんたちはその間じっと待っていらっしゃいますから申し訳ないのですが、逆に私がどこかへ出かけた場合先様がお茶の時間だったら待たなくてはならないわけです。

私のボス Stefan Lundgren 教授はインプラント手術では世界トップレベル、かつ親日的です。顎顔面口腔外科は病院中央棟の8階にあり、診察室や外来手術室からの眺めは絶景です。私は今、こ



のすばらしい環境の中でインプラント関連手術（骨移植・仮骨延長術）、外科矯正手術、口腔腫瘍切除・再建術（耳鼻科・形成外科との共同手術）を中心に行っています。また、上顎洞内での最新の骨造成法に関する研究も開始しました。＜口腔腫瘍の一貫治療、切除から機能再建まで＞という私のミッションをさらにスキルアップすべく精進したいと考えております。

最後になりますが、スカラーシップ申請に際して事務手続き等で多大なご尽力を賜りました日本部会事務局にこの場をお借りして御礼申し上げます。

どうぞご自愛のうえお過ごしくださいませ。
それでは、Ska vi fika?

敬具

2007年1月吉日

長崎大学医学部・歯学部附属病院口腔外科 講師
ウメオ大学顎顔面口腔外科 客員教授
関根浄治